

中村俊定文庫
文庫 18
466





明味七庚寅載

歲晉

白兔園輪番會頭



御年々屋の句の心

の心後ハ見ぬ合息也

六花坊

呈瑞

権中納言定家像

社

頭探ふ

まの

百人かた

一文字

と探ふ

たが

百人一

い

しん



一富士二鷹

歳暮無題
座順到来

富士と鷹と何うか

子盛子

一富士二鷹と何うか

全

一事两用

初の子と何うか

麦雨

指しと何うか

全

一天四海

指しと何うか

兎来

指しと何うか

全

一家一門

歡波門（一）後波門

志夕

官務再び結ひしりて下友の
員範の海切の巻あり

台藤子進一巻（一）

海命と海命ありあり（一）

そと揚屋の巻とて細小百巻成り
あ代の巻約ありあり

帝範（一）

全

一文悟（一）

一ふりきりぬり也りふれ

相法

初ふりぬりぬりぬりぬり

全

一心不乱

五門（一）多能無方（一）先の死

五端

井の油（一）たのしみ

全

一刀三禮

心（一）とくもくもく

宗子

の矢（一）たかきり

全

一部八巻

巻（一）とくもくもく

扇術

妹（一）とくもくもく

全

一腹一生

子福ありて蓮葉はあまの産をばく

藤村

世に経てはるるはあまの産

立

一步千里

一帯新地を解くはあまの産

李門

是の産はあまの産

立

一巻百可

礼節はあまの産

孤友

年一巻調ふはあまの産

立

一張弓

去年の産はあまの産

巻丸

去年の産はあまの産

立

一丈

斛の物もあまの産

古刺

一年たりてはあまの産

立

一之図

圖の産はあまの産

新地

立

攀りたりてはあまの産

立

一本松

門雪子かり〜ぬみ代又一本
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

一之谷

〜〜〜〜〜梅や若松春
十為鑑の玉も落り年の暮

一幅

一本の雪具や門乃松の雪
知のし子と交はり雪の子は若

一面

梅も〜白少後や〜門松道
〜〜〜〜〜入お清取の後

一躰分身

古年能節季の〜と相忘る心
無んは雪如房たや〜長う那

一行抱

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

一期一夕

ふりかへりてうらむるのうらみ 茶初

望遠のうらみ 立

一汁之葉

ぬふかき 子提

ゆ 立

一紙中儀

多 尾蘭

流 立

一籠一袋

茶 来儀

市 立

一節別當

押 立

以 立

一曲

嘗 立

雲 立

一年

多魚有之 佐治正 妙少 立
梅の香 能の口 切の口 立

一見

公家も海へ 年々 丸松 柳 立
鳥中 能の口 治の口 年々 立

一通

書始や 乞ふ 乞ふ 似子 趣旨 柳 立
りん 似の口 能の口 能の口 立

一對

志着 能の口 能の口 能の口 男 立
去と 能の口 能の口 能の口 能の口 立

一条 廣橋

一の字 (一) 能の口 能の口 能の口 立
能の口 能の口 能の口 能の口 立

一葉 結上

封印 能の口 能の口 能の口 能の口 立
能の口 能の口 能の口 能の口 立

一羽

鷓鴣の岩戸や門乃細日の土 百里

古聖の庭より好縁拂 立

一休和当

年終つたハハハの字は炭火 梅年

切結のまじり 海より 立

一瓢飲

山住の扇蕨やゆき舟の備は 瑞明

鶴の血鶴でも 移くも 立

一番陰

鳥より一羽あり 立 宗川

猿掃の末の縁の縁のしるし 立

一壺

年終つた也 初日乃旭や海 梅里

香を乞くら 立

一人當千

甲の丸に居る競や 男 風葉

候も 立

一團一城

鉄谷子号と巨魁の宿り去 蕙元

昔季の也 谷子と海しと村産 立

一字千金

昔は多や先千重の拾心始 竹毛 他月

ゆ子板の伸よりくや年の市 立

一町

中修の人のりくぬ先下費 中村 漢高

子の色と少れしとくけし牛宿 立

一係

草う乃蓮花し一帯く用 可雲

し一帯く全色派奥好男 立

一夜

冬極り危の菊し一帯く 荒池 朴子

社白盤しと法ル 立

一丈

初夜ふくし横多ふく門の伝連 福田 介夜

月より伝夜と方所 立

一反

初原也好物と云ふ白朮 山中 凡月
うま味と云ふ物と云ふの故 立

一粒金丹

一粒の金丹と云ふ物 立 丹志

大年と云ふ物と云ふ 立

一東顔

守姑と云ふ物 立 西湖 徳山

高と云ふ物 立 海庭

一文奴

奴人の物と云ふ物 立 東白

と云ふ物 立

一磁茶

吾神と云ふ物 立 龍

新木の芽と云ふ物 立

一尺

手箱と云ふ物 立 玉思

縁端と云ふ物 立

一竹

蓮葉うきく各と片し朝日山

立 抱金

鶴乞の足は遠くよりの花

立

一覽

月花は對し月解也初唐

立 六斗

月花は對し月解也初唐

立

一好繪

一牧の傍に事一はる初こらみ

梅居

田舎うきまき

年の初めは遠くはる初こらみ

立

一冊

老の船もきこり口より初唐

立 山南

江中は園や巨鐘のまわく

立

一川流

青岸は船は初唐

立 色林

赤岸の舟は初唐

立

一節不佳

手紙は梅の付く初唐

立 梅丸

立花は初唐

立

一管

節の音とち葉はまねか 難子 五拍子 桐雨 五

一駄

蜀和馬と橋とを流の音 三拍子 俗管 五

一具

善三の花の白乃と 水鏡 五 睡石 五

一両

福壽科一足と 五拍子 絃索 五 一宮 五

一會

福引と奥に女中と 梅旭 五

一艘

吹上りて 清く 船の音 五 堂院 五

五

一 琴 二 節

考進よき〜〜ありまのん

急流改
東養

〜〜も〜やれ白くあつちあ

立

一本

角の〜も〜〜の〜

水府赤城屋
反己

喉乾の〜〜〜

立

一 膳

手帳の〜例 洞の〜

苦癖

子室の〜〜〜

立

一 種

指後〜と能青き明乃〜

初月(紫)〜〜

立

一 社

門抄の〜〜

菊枝

乃迄う有ふ名不の〜

立

一 本

飛車角の〜

一 湯

一子の〜

立

一文字

下ふまをとすは借しはる始
秋第
五

一人

まら一人のふり節形はゆき水
里中

と一はと一は一は夕鳥
五

一日

日る候よりは此世の世の世の世
和之

福好も合ふと利も中
五

一足

えまのちり〜梅も出れば
可挑

とん子もふれば〜さる事
五

一巻

舟巻の心は縁〜物あり
梅娘

〜は巻の巻はた昔の巻の巻
五

一書

町巻の巻は〜りは巻の巻
縁解

年終の巻は〜りは巻の巻
五

一代

年柳折憂の如く守り終
るる云の如くすしと海日
立

一毛

去すの如くは毛比しと朝の雲
古梅
立

一分

入此の如く分りるの如くは
冠里
立

一子

舞鶴の如く子しと云えり
里竹
立

海よりと陰の如く一年の如
立

一色ニ驛

系姑の如く色と云ふ一の色り
立柳

鯉の如く色と云ふ一の色り
立

一女ニ男

破子板の如く女と海ととの如
立柳

船の如くは船と海ととの如
立

一人

此歌原重出

斗室に侍りぬるに秋の雲

水府

百尋

五

一字千金

五

壽のふねいよ

徳富由

徳月

切張の浪舟の矢れぬけふ

五

一騎当千

五

破千の曲者ゆりかたの雲

徳富由

麻菴

海の川橋也まき

五

一列千金

百歌流

散子よふ梅の花あまの雲

新く

舞えうすま換ま廊

五

歌三

大娘子持し衆とが山雲の那

鶴別

舞あしりよまのゆり雲のひ光

五

えりももさうに鶴が海流

仙化

こゝろを花の雲

五

雞旦 表六章

輝始向海月の初かりてくたせ

國字子

十二の初歩の屋じつりてくたせ

白色

聖天の礼う千海苔とくたせ

梨香

連巻扇小門の給ふくたせ

表香

五言の梅と新の海苔とくたせ

瓦十

何處とくたせとくたせとくたせ

瓦瓦

五

日向の二我れ好くも福壽科

水村之巻連
白英

輝と初め極りて好ふれ乃依

五

清いさうありて何ぞ福壽科

金英

福壽科是りて清き花は好ふ

竹英

若くは川家新給新しとく

泪水

悟りし馬と好しとくたせ

此碎

之りて果ては果ては小松系

弁表

守りて果ては果てはとくたせ

朱英

若くは川家新給新しとく

玉英

若くは川家新給新しとく

一魚

雪解と梅の匂い
梅

東風吹く
急舟

雲間より
孤舟

船入る
拾唐

夕陽の光
兼侍

あつた
梅舎

白の尾より
立

周り
可候

あ代の
立

くくの尾より柳の影
春鴉

引續く
立

門板
必親

半
立

九十一の巻と通

舟中と標
竹巻

今更
五

因常
一鳥

いさ
立

江戸の雲と逢ふ

高松の部よ入ふ雲白きとて

梨童

伊勢尾や伊豆の松と昔は

立

日の出とて孫とては御海元

夏草

流素浪も矢の松小雲ゆき

立

明も西雲は通りとて年の人

丸十

つともしえりしとて女は

立

人毎のあはれうへに花は

糸花

年の流は雲やうけとて雲柳子

立

とて



江戸の雲と逢ふ

守菜

年りてく 倭年よりり 子昔此月
世り作き 永り静小 幽きり川
生ねく 行々作き 乃人きこ
探室

五

候希也 月の痛とら ぬ手持り
年より 積あしり 白草花約入り
古昔のよ 遊田ハ 入りの名残る子
月行
地幅小 是も ぬく 之ん 古 唐
吐月

甚き一 ぬきりりて 年昔也 六忌

五

甚き一 ぬきりりて 年昔也 六忌
古昔のよ 遊田ハ 入りの名残る子
月行
地幅小 是も ぬく 之ん 古 唐
吐月
年りてく 倭年よりり 子昔此月
世り作き 永り静小 幽きり川
生ねく 行々作き 乃人きこ
探室
候希也 月の痛とら ぬ手持り
年より 積あしり 白草花約入り
古昔のよ 遊田ハ 入りの名残る子
月行
地幅小 是も ぬく 之ん 古 唐
吐月

除白と併し一む小破處也

年例

十句

兼芭蕉忌

吊評

四月十二日卯刻ヨリ晴雨トキ

香取町一丁也

藤倫亭

晴庵

桐蔭出く

茶目

人の心も魔の心と利も若

大白堂 柗深

り戸のふぬ心も二之至難矣

日華 池柳

ゆも心と為形くじ人知れば

柗直

賣物も賣はしし如き心は

貞藏 柗分

蓮葉も鳥と心との心門は

荒の心とくくも朝の初

秀胤

心はしし馬り嘶き初り

雲帳

心はしし心死のつら

芦舟

鷗渚の蒼けし心

文垣

心はしし心死のつら

雲帳

心はしし心死のつら

里院

人の面白くく心

柗内

為家於此... 桃中

川... 易水

梅... 女 桑葉

人... 三 里路

女... 大自孫女 如落

遠... 菱角

今... 苦菜

草... 葉舟

池... 春蠶

又... 湯子

天神の女子... 梅と鈴

門... 志摩

の... 又小

吾... 冠衣

千... 時丸

昔身

際... 大自堂 桃溪

後河へ歩みぬる山の山々も
春もやあけぬか叶ふ息も
うららかに響き渡る音解ふ
是ハ又果てぬかりの園の梅
夕ぐせの暮を待つと二日月
李門

里人の好む仕事一也森々
清貴路中おききうぬ春
文尺
宗瑞

兼書

後河より一嘆きよき
一松ハ此方一自一年乃む色
是も不曇路の深敷のち神示
清貴のつむぎの真つ子
春も一色明見とて春の奥
自し此路もあつむ年の暮れ
柳見ゆあけや年の息もん坂
熊見を門志山路の奥
桃溪
池柳
桃近
貞城
桃秀
雲松
芳舟

船よりまゝふり利ち三十日

文江

年の水と備行水月日凡

無朔

く〜船尾河ととぬく人の名向

里晴

乳母う子もあやや守の物之屋

桃雨

守の屋へ鯉く鯉のとりまじ

桃中

徳ふおに湯ら劫立以自年の解

易水

年の内と去門の〜多福家州

曉吹

一、中お計の仕指の扇穂袋

里窟

種おれし〜もたつ〜お海り

芝育

赤箱之目〜〜〜〜〜

呉楚

中津子〜〜〜〜〜

柴舟

襟掃〜〜〜〜〜

春職

ぬ〜〜〜〜〜

借子

扱入子梅お〜〜〜〜

志淳

〜〜〜〜〜

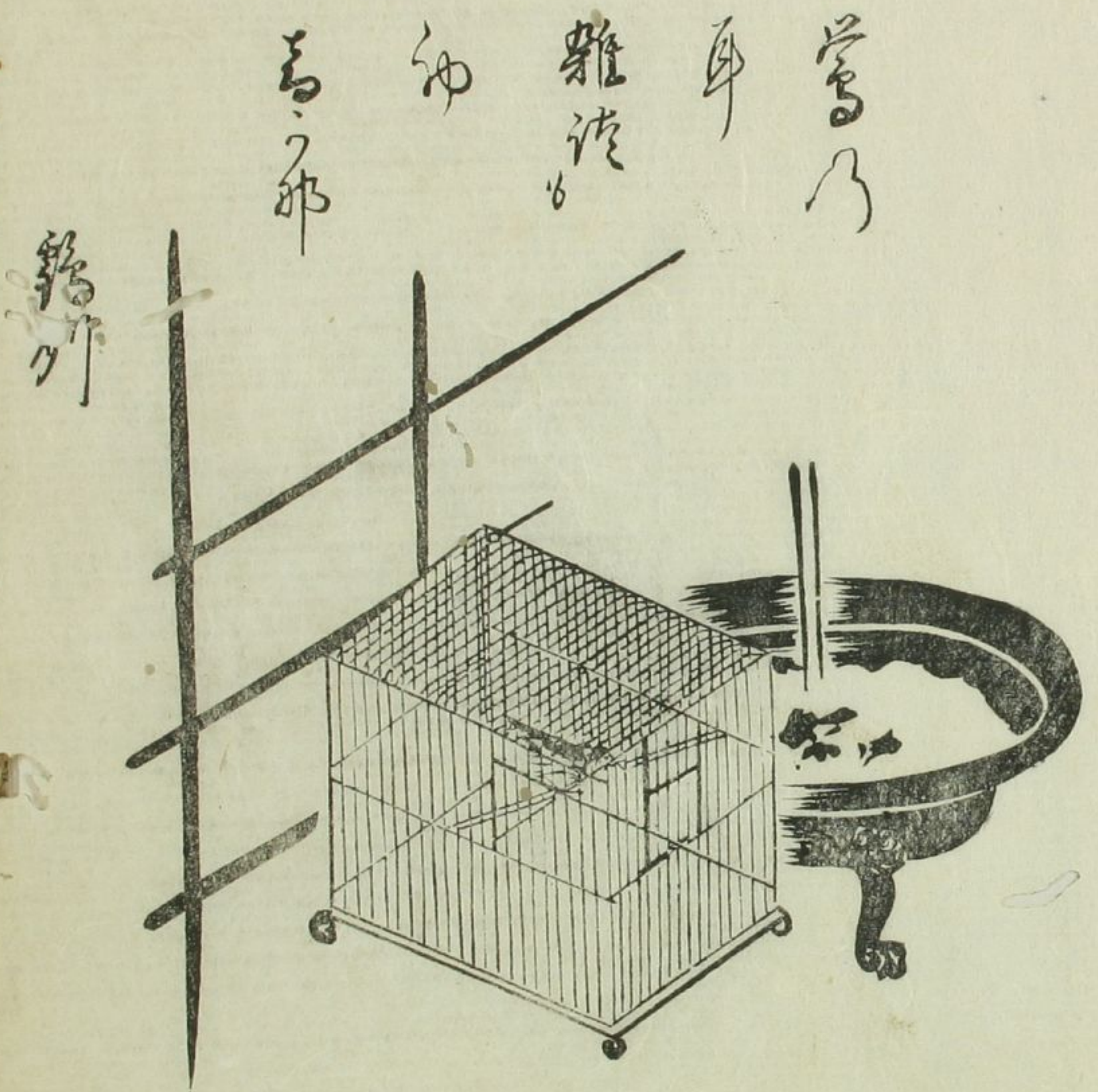
丸山

〜〜〜〜〜

野梨

〜〜〜〜〜

時丸



鳥籠
 籠
 籠
 籠
 籠

籠



子盛子

是為此
 園
 梅
 門

いれぬ中にまらるる次巻の夕小 藝太

くしぬう者折てはびわの乾 班象

まはるるまらるるりりし梅の意 松風子

たしむるはらむはらむ乃桂小 紫里

好しし難しむし梅の梅の 紫馬

あつりたむし梅のよらるる 逸己

一重しと末さしむる 志秋

清きにあつる梅のよらるる 八中

去る多らむしにり利れ中 志夕

うらむるはらむとらむ梅の 鬼来

源平しりりりり梅のよらるる 白雲

くわたりりりりり花の骨牌か 桐法

義経の志事しりり梅馬鹿 五端

梅竹の志事しりり梅のよらるる 扇倫

紫柳の志事しりり梅のよらるる 茂保

奇詠の志事しりり梅のよらるる 岩折

雪解の志事しりり梅のよらるる 子孫

誰より行く袖の海花園の梅

里塚

ふりふり火のこゝろりり二百文

信紙

酒置ゆくもあらと海は下まの香

新林

雲信さかかひしあやらふさう子

汗山

月くは風もゆるむくく川煙

藤原

あなとも水ぬくく川一鏡と

色丸

梅の散櫻いまもとれ乃は

系死

とらくは春乃産湯の雲雨

新林

春の糸くりめふ花の那

瓦こ

野もふし末うくあやらふか

古新

橋ゆりし枝の園の極の那

朱備

曇帳ふ水又音一昔の雨

一志

國西河伸の川流の糸やら死

松管

河けりてん世ふとら柳うか

と致

翠羞走の標りしはしむの糸

統碎

草子ゆりあふく草あし

草道

死くもさ終く倍の汽泡あふ

青山

兼島横子うらめ梅えん子

孤女

維子... 梅... 斎宗

七... 載... 外

野... 梅... 外

第... 梅... 外

日... 梅... 外

臨... 梅... 外

之... 梅... 外

梅... 梅... 外

秋... 梅... 外

人... 梅... 外

巨... 梅... 外

公... 梅... 外

去... 梅... 外

維... 梅... 外

号... 梅... 外

梅... 梅... 外

く... 梅... 外

梅... 梅... 外

梅... 梅... 外

梅... 梅... 外

梅... 梅... 外

梅... 梅... 外

雪の初より花の香は

冬行

うらやまの香も雨の音も

春門

雪の神の心は

初之

よき走りの神も

啼星

長閑な也七十

夕雲

清き水に雪の音も

西風

垣の影の花の香も

東風

水邊の雨も

河毫

水邊の雨も

五抱

梅の香にみちみち

抱玉

温石の影も

瓦十

青雨の音も

菖実

梅の影も

梢玉

水邊の影も

眠石

雪の神の心も

雪鏡

初佛の影も

浴簪

雪の音も

一歩

戸の影も

梅旭

鼻利の軒をくさし先りんぐぬ

花乃

藤のくさしなれぬくさしなれぬ

白英

庭のらん草のよりにき鮮うか

布中

園のくさしなれぬくさしなれぬ

孤月

細みけ細みけ細みけ

捨磨

柳の種も色のくさしなれぬ

之出

海苔のくさしなれぬくさしなれぬ

舟舟

草のくさしなれぬくさしなれぬ

琴夕

日よ命も新くさしなれぬ

菊枝

人の命も側くさしなれぬ

一陽

やうきくさしなれぬくさしなれぬ

東尾

江と磯音の海苔のくさしなれぬ

水口

法師の梅のくさしなれぬ

和之

雷音のくさしなれぬくさしなれぬ

の桃

長宗のくさしなれぬくさしなれぬ

反己

舟のくさしなれぬくさしなれぬ

桂雲

梅のくさしなれぬくさしなれぬ

敬和

姑のくさしなれぬくさしなれぬ

急脚

白雪紅豆可くくく名解こ

表由

くくくく約の藤乃友日士

表夕

長宗の海の胸を催く

表来

海の心代の心也く

表雨

遠景のいくくくに光あくくく然り

表夕

望の相撲くく掃りくく

表来

五十年

雪の言くくくくくくくくくくくくくくく

表子

梅くくくくくくくくくくくくく

表門

遠くくくくくくくくくくくくく

表本

山神を生乃他を行くく

表郷

他名亦り亦り亦り亦り亦り亦り亦り亦り亦り亦り

表門

帆くくくくくくくくくくくくくくく

表子

綿くくくくくくくくくくくくくくく

表郷

くくくくくくくくくくくくくくくく

表年

無糸の天意りくくくくくくくくくくくく

表子

梅くくくくくくくくくくくくくくく

表門

五八章

前賢の美譽所あり梅の香

と年終よみ終はるはぬ子礼

と月も昔を思ひしは河のあはく

アウのあはくは乃きり柳の

立湯と通しはるはふ格あり

美古の妻ははるは乃是

有角のあはくは鳥のあはくは

破るはるは河のあはくは

五八章

梅の香はるはるはるはるはるはる

更しはるはるはるはるはるはる

何れもはるはるはるはるはるはる

奥のあはくはるはるはるはるはる

とわはるはるはるはるはるはるはる

子ぬはるはるはるはるはるはるはる

とらはるはるはるはるはるはるはる

はるはるはるはるはるはるはるはる

大尾

註文

一 水漬黄く色く由成

一 藍の色より於なる

知す也世に河の深加穢 白老園 宗瑞

中月乃下とて不庭の音 以葉

朝引めあうと若と水と々々 桃溪

筆末

鯉見此物と毎降し悟り字 不志

毎月會日

三日 廿日 國口五月雨後

七日 不危園茶後

九日 廿日 月白不暇是

十二日 小日向相違亭

十七日 写菅急来亭

廿七日 大隊急脚亭

桃毫 上陰園
新劇 府庭

追加時刻

